

幼児期における遊びの中の伝え合い

鹿野良美(東京家政大学大学院生)*

1. 問題の所在と目的

次期幼稚園教育要領改訂(平成30年度実施予定)では「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の一つとして「言葉での伝え合い」が挙げられ「対話的な学び」の充実がうたわれる等¹⁾、幼児期に伝え合う力を育むことの重要性に関する認識が高まっている。幼児は、遊びを進める中で、言葉や動きで伝え合いを行っている。²⁾ 遊びの中の伝え合いの特徴を探ることは、幼児期の対話的な学びをとらえる手掛かりになりうると考える。

そこで本研究では、「ボーリングごっこ」の事例において、幼児がどのように伝え合っているのか、その特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 対象と方法

公立B幼稚園5歳児クラスを対象とした。20XY年9月～3月まで保育を観察し、筆記及びICレコーダーによる記録を行った。

【倫理的配慮】事例の使用について園の許可を得るとともに、園名、個人名等を特定できないよう配慮した。

3. 事例と考察

本事例では、イメージを共通にする、場を作る、やってみる、片付けるといった遊びの過程が見られ、それぞれの場面において伝え合いが行われている。ここでは、A、B、Cの男児3名が、大型積木を使ってボーリングの場を作る場面を中心に述べる。

事例「ボーリングごっこ」(10月)

A 「前やったことあるんだからさ、思い出してよ

B 「分かったよ」

(中略)

B 「(Aに) ねえ、何個積むの？」

C 「えっと、これで2個。3個。1, 2, 3」

A 「(同時に) もうちょっと広くしよう①」

B 「1, 2, 3, 4・・・6個！」

A 「6個？違うよ。2, 4,・・・10個出さなきゃいけないよ。あと8個出さないといけない」

C 「ねえ、まだ？」

A 「まだー！自分も手伝わないから、まだなんだよ」

C 「ねえ、ねえ、Aくん？」

A 「な～に～？」

C 「これ長すぎだからさ」

B 「ねえ、ねえ、Aちゃん、これ割れちゃうから(離れちゃうから) こうやって(くっつけて) もいい？②

A 「(Bに) いいよ。(Cを見て) 横にすればいいんだよ、横③

(C大型積木を横にする)

A 「あと4個だ。あと4個。」

B 「あと10個だよ？」

A 「でも、だって、Cくんがさ、そう(横に)したからさ」

B 「あと3個だ。これをやったら、あと2個だ」

A 「(積み木を運ぶCを見て) Cくんがきましたー」

C 「(真ん中の積み木を押しながら) もうちょっと小さくしたら？④

特徴の一つ目は、方策の提案³⁾の内容、すなわち、「その場に出現している物に対する提案」と、「見えない物に対する提案」である。

「もうちょっと広くしよう」(下線①)というAの提案は、ABCが大型積木を構成して出来たボーリングのレーンを見て、狭いかもしい、広くした方がいいと考えて言葉にしたととらえることができる。このように、イメージだけではなく、幼児が実際に大型積木を動かし、場を作り、出来た場や物を見ることで「やっぱりこうしよう」と気がきが生まれ、「その場に出現している物に対する提案」として、その気付きを友達に伝える姿が見られる。実物が目の前にあることで、言葉だけでは伝えきれない部分を助け、伝え合いがしやすくなると考えられる。(下線②～⑤も同様)

一方、「前やったことあるんだからさ、思い出してよ」(下線)というAの言葉は、以前経験した遊びを再現しようという提案である。場が出来上がると、B「ちょっと待って」A「ペットボトル？あっちにあるよ」B「わかった」という会話も行われていた。AもBも以前遊んだ際に、ペットボトルを使ったことを思い出し、その経験をもとに伝え合いを行っているのととらえることができる。友達とイメージや考えを伝え合うために、見えないもの(ここでは以前の経験)をもとにした「見えない物に対する提案」が行われている。「見えない物に対する提案」は、その場に出現している物ではなく、頭に思い描いたものをもとに伝え合いを行っていくため、より高度であると言える。

特徴の二つ目として、理由付けの発話が多く見られた。(網掛け箇所)本事例において、幼児は友達に思いや考えを伝える際、「自分も手伝わないから、まだなんだよ」等、その理由を相手に伝えている。理由を述べることにより、自分がどうして欲しいのか、なぜそうする必要があるのでかという意図を相手に伝えることができる。伝え合いを行う中で、相手に分かって欲しいという思いから、理由付けが多くなると考えられる。また、言われた相手も「いいよ」等と返事をしたり、新たな提案をすることで応答したりする姿が見られ、伝え合いが行われていく。本事例から分かる通り、遊びの中の伝え合いでは、「その場に出現している物に対する提案」「見えない物に対する提案」、および理由付けの多発という特徴が見られることが明らかになった。

※人間生活学総合研究科 児童学児童教育学専攻

【引用文献】

- 1) 中教審 幼児教育部会における審議の取りまとめ(2017.1現在)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/index.htm
- 2) 鹿野良美(2016)「遊びの中で生じた課題をめぐる伝え合い—伝え合いの特徴に着目して」保育の実践と研究 vol.21 no.3 スペース 新社保育研究室
- 3) 前掲2